

- 福岡県のほぼ中央に位置し、面積213.96km<sup>2</sup>、人口127,449人（令和2年12月現在）。

## 【現在の課題】

- **高齢社会・人口減少社会の進展**

人口は、1995（平成7）年の140,463人をピークに減少。  
高齢化率は30%。

- **地域コミュニティの担い手不足**

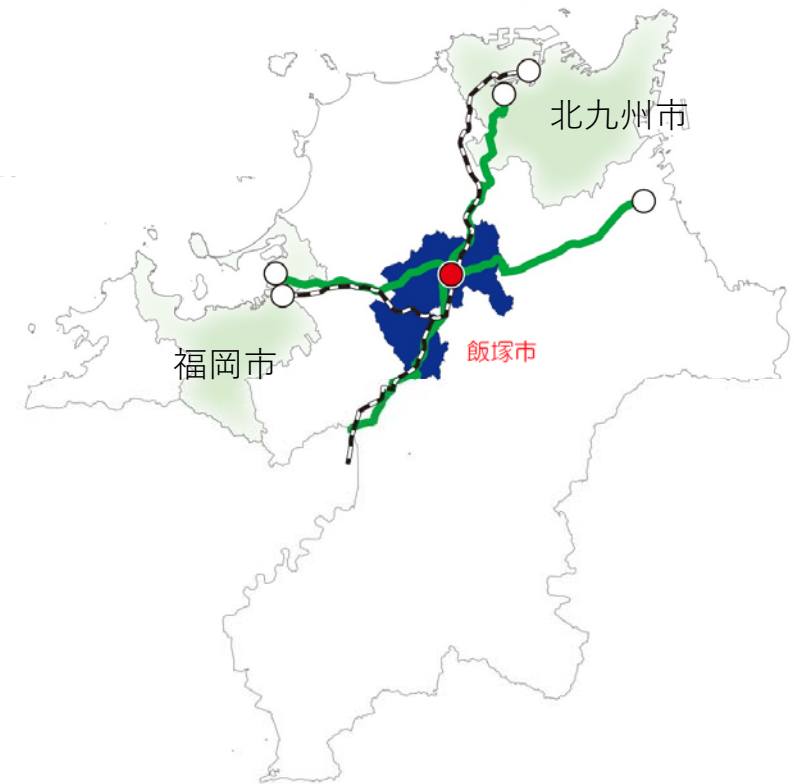
高齢・人口減少社会は、人材の不足、自治会加入率の低下など、地域のつながりが薄れ、防災・防犯等地域課題解決への悪影響。

- **脱マイカー社会の必要性**

近年の研究から、自動車社会は健康への悪影響（例：メタボや生活習慣病）も指摘されており、脱自動車化による歩く習慣づくりが必要。

- **医療費・介護給付費の増大**

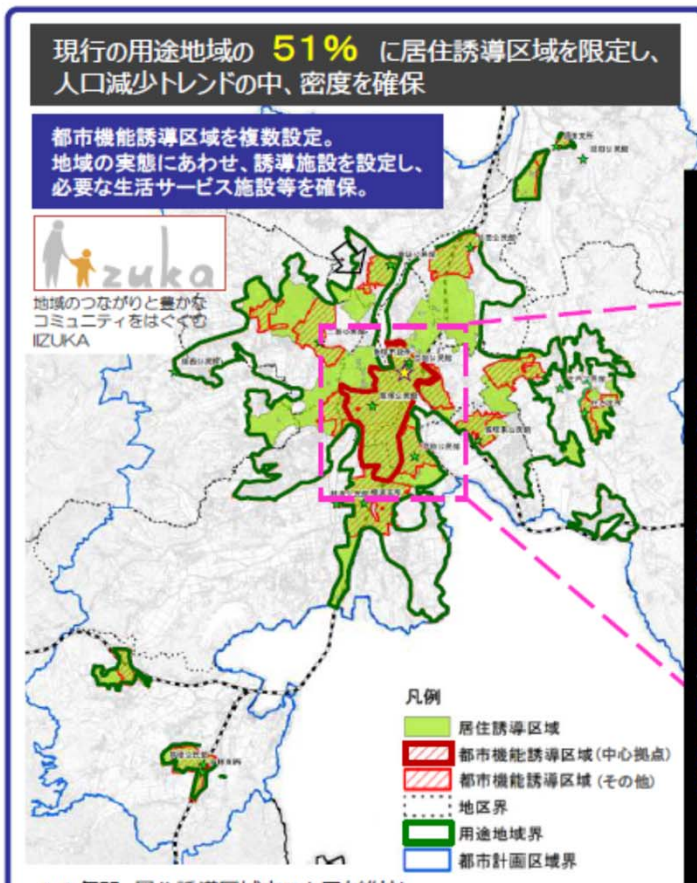
当市の国民健康保険医療費は、最近の5年間で約13%、介護給付費は約20%増と急増。生活習慣病の予防のため、若年者からの健康への取り組みが重要。



# ②導入経緯 ～課題解決に向けた取り組み～

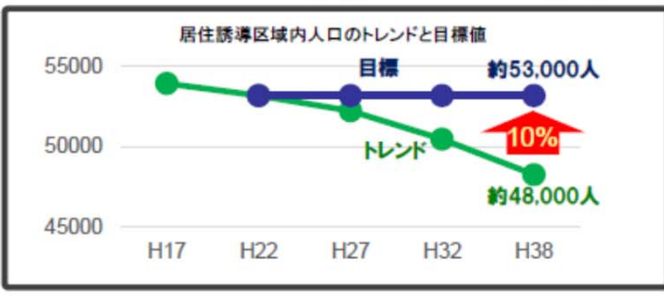
福岡県飯塚市:人口約12.9万人(H27) ↘ 約11.9万人(H38)

国土交通省  
(地域公共交通網形成計画)平成28年9月12日公表  
(立地適正化計画)平成29年4月1日公表



まちなかでの先行的な取組の効果を全市的に波及

10年間、居住誘導区域内の人口を維持し、推計値から、**約10%**の人口増を実現



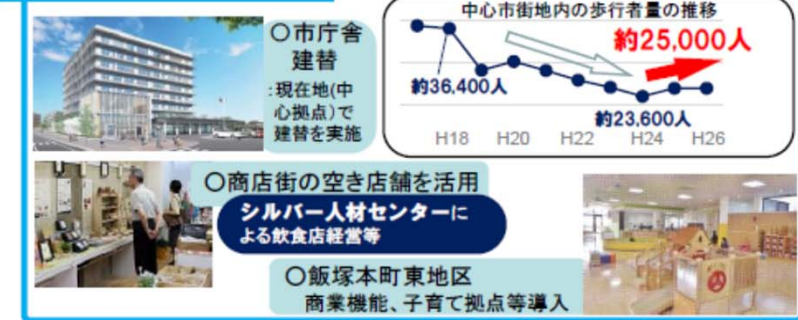
## まちなか 居住の推進

まちなかの福祉サービス向上による居住の推進

○まちなかの住宅供給  
再開発(ハスターミナル等)や区画整理(子育てプラザ等)などにより、151戸の住宅を誘致



## まちなかの賑わい創出



## 医療・福祉の拠点づくり

○医療施設・学校のまちなか移転  
・急患センター  
・看護学校、訪問看護ステーション

医師会の協力により実現

地域包括ケアの拠点

## 福祉サービスの生産性向上

■訪問系福祉事業者及び居住者をまちなか誘導し、福祉サービスの生産性を、**約13%** 向上

居住誘導区域内の高齢者人口密度が、区域外の約10倍となることから、訪問時の移動時間の短縮分を試算 ※①

## 健康寿命の延伸

○ウォーキングコース整備  
○ジム整備、健康教室の開催による歩行量増

福岡大学スポーツ科学部との連携

ウォーキングイベントの参加人口の拡大  
1,000人(H25) → 3,000人(H30) ※いづか健康都市基本計画

○撤退したデパートをコミュニティ機能の拠点として建替。運動施設や障害児福祉機能導入(健幸プラザ)

職まちづくり飯塚が事業実施(100%民間出資のまちづくり会社) ※事業費約7億円

## 歩行 増進

■まちなかから、全市的に歩行量の増加を波及させ、**約8.4億円**の医療費を削減

40歳~74歳の3割が一日当たり2,000歩増を想定 医療費削減効果から試算 ※②

## 空き家対策

■まちなか居住の促進や、多様な集客施設の集積により、空き店舗を解消

本町商店街空き店舗の推移

年	空き店舗数
H23	24
H27	12

解消

空き店舗の減少トレンドをさらに継続

※①② 国土交通省試算

## ③実施内容 ～本事業の目的～

本市の**健幸都市将来像**

**「すべての人が健康で いきいきと 笑顔で暮らせるまち」の実現**をめざし、ICT高度活用によりこれまでの取り組みを加速させるべく以下のサービス導入を図る。

サービス①：「**健幸ポイントサービス**」による市民の意識改革と行動変容、健幸の実現

- 歩数、イベント等への参加をポイントし、インセンティブを付与
- 実証前・後に健康測定（体組成計測定）し、効果を測定・検証

サービス②：**健幸まちづくり型「MaaS」**の開発と実導入

- エリア内でタクシー運航（アプリによる乗降）、利用状況の把握、今後の可能性について検証

サービス③：**ビッグデータ活用による「まちづくり意思決定支援サービス」**の開発と実践

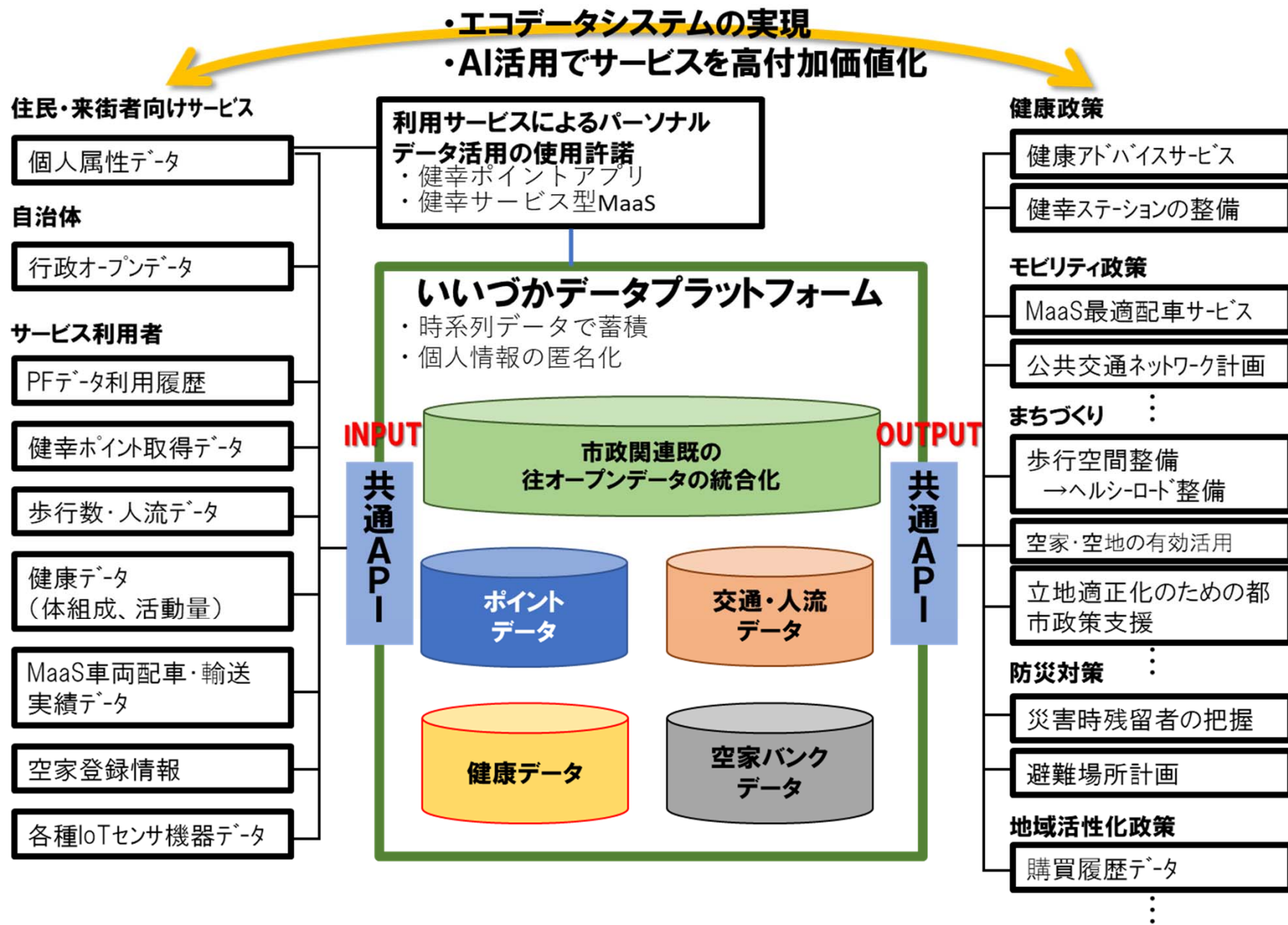
- ①②④の情報を一元化（プラットフォーム）作成、情報を蓄積
- 対象者の行動様態により、今後の整備方針の決定支援

サービス④：**公的不動産（PRE）活用による「健幸づくりステーション」**モデルの開発

- 商店街の空き店舗を利活用し、健康関連の企業誘致（健康食、健康器具等）
- 健幸づくりステーション：企業活動とともに健康情報の提供 など

# ④目標 ～データプラットフォームの考え方～

- ・ 事業の効率化を図るため、将来的にデータプラットフォームを構築を目指す。



# ⑤本年度の取組み ～健康無関心層への働きかけ～

## ●健康無関心層への働きかけ

◎成人の7割が健康に無関心  
◎新たな健康情報を得ようとはしない

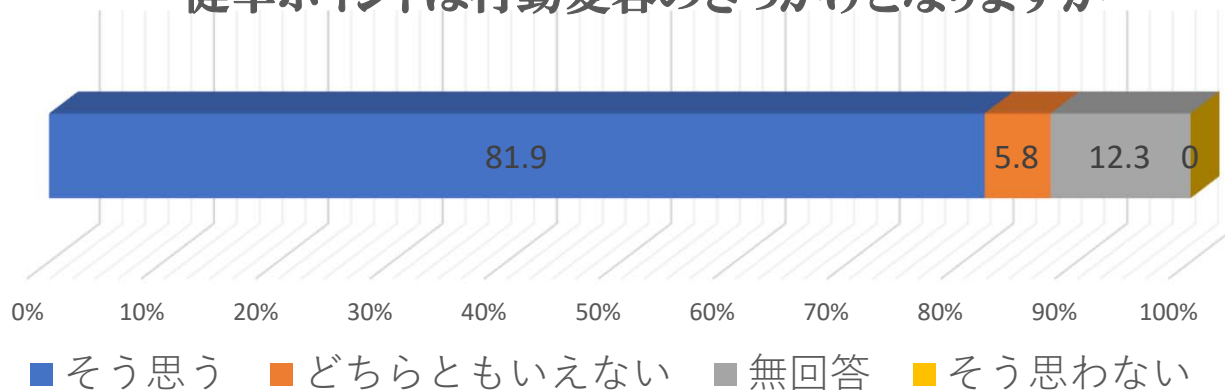
### 情報収集・試行の動き

	生活習慣病の予防に必要な運動量不足 (67.5%)		運動充足 (32.5%)
	運動実施意思なし (71.0%)	運動実施意思あり (29.0%)	
健康的な生活を送るための 情報収集・試行	していない	<u>している</u>	<u>している</u>

資料：平成22年筑波大学久野研究室（有効回答1,914名）

## ①インセンティブ策による働きかけ 健幸ポイントによる行動変容

### 健幸ポイントは行動変容のきっかけとなりますか



資料：平成30飯塚市健幸ポイントやる気アップアンケート調査（519名）

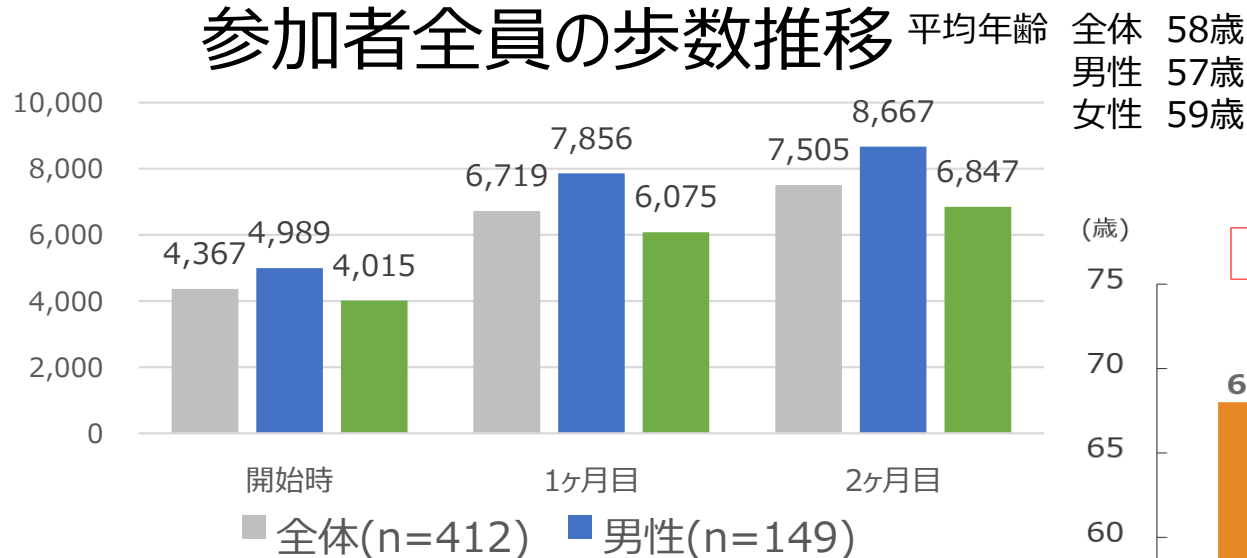
# ⑤本年度の取組み ～いっづか健幸ポイント～

## 《参加者数目標値》

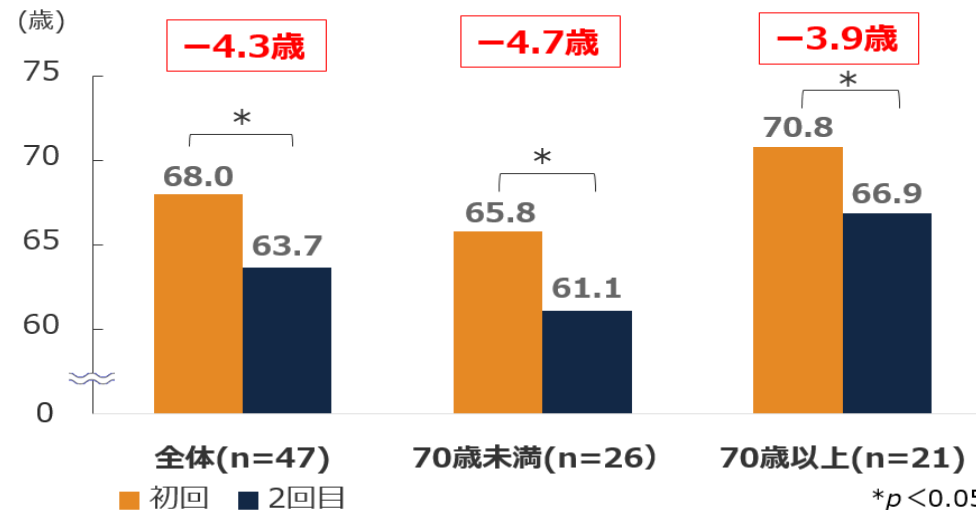
	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)
健幸ポイント事業参加者	650人	2,090人	3,380人	5,040人	6,540人
個別運動プログラム教室	100人	160	200人	220人	240人

## 《今年度の実績（歩数&体力年齢）》

### 参加者全員の歩数推移



### 体力年齢の変化



出典：つくばウェルネスリサーチ、タニタヘルスリンク

※体力年齢・・・体力測定6項目のそれぞれの得点を合計した体力得点と性別から換算した数値

# ⑤本年度の取組み ～いっづか健幸ポイント～

## 《建てつけ》

事業形態：2市2町連携による大規模健幸プロジェクト  
 予算：内閣府（ヘルスケアプロジェクト事業）  
 スポーツ庁（運動・スポーツ習慣化促進実証事業）

## 《いっづか健幸ポイント事業概要》

参加要件：20歳以上の市内居住者  
 し く み：活動量計又はアプリで参加  
 →歩く、図る、参加すること等でポイントを獲得  
 →年間最大5,000ptを獲得することが可能

## 《主な目標と実際の成果》

目標項目	募集人員	実績
ポイント事業参加者数	650人	約800人
インフルエンサー認定者数 * 健康情報伝道師	260人	約150人
個別運動プログラム教室 * 筋トレ、ステップ運動等	100人	約80人



体組成を測る



歩数データを送信する



活動量計または  
スマホアプリを  
持って歩く



# ⑥今後の予定 ～本事業で実現するサービス～

## ◇「健幸ポイントサービス」と「まちづくり意思決定支援サービス」

- ・「健幸ポイントサービス」で市民の健康意識と健康増進を実現
- ・当該サービスで取得されるビッグデータを、まちづくりにも活用する、官民win-winのデータ活用モデルを実現

### サービス① 健幸ポイントサービス



TWRアルゴリズム(総務省6都市実証モデル)を活用してインセンティブポイントを付与

- 体組成計情報の改善
- 個人別目標の達成
- 継続率
- 健幸アンバサダー活動など



### 関連サービス① タウン・イベント情報: 外出を促す仕組み



本日のタウン情報

### SmartWellness IoT

#### バイタル計測器



#### スマホ

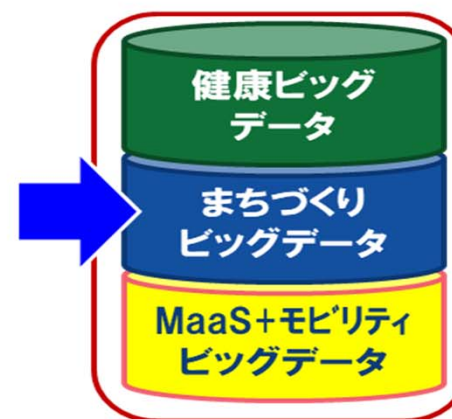
- ・GPS情報(移動経路、交通手段識別)
- ・健康情報やイベント情報のメディア

歩行/自転車走行ルートだけでなく各種バイタルデータを蓄積

### 関連サービス② :一般市民を中心とする 口コミ伝道師(健幸アンバサダー)による情報伝達口コミ



### サービス③:ビッグデータ活用による「まちづくり意思決定支援サービス」の開発



行政効率化

### 関連サービス③ スマート・プランニング気持 ちの良い街路、 スポーツルート整備・設定

